

授業の視点

差別をなくすための話し合いを、キーワードを基に行ったことは、普段の生活の中で自分が取り組むことを具体的に考えるために有効であったか。

1 題材 コロナ禍の中の人権

内容 (2)ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 生徒の実態と題材設定の理由

(1) 生徒の実態

(2) 題材について

コロナウイルスに対しては、まだまだ未知なる部分が多くある。その中で、正確かどうか分からない情報が今後も出続けていくと思われる。生徒には、そういった情報を鵜呑みにして惑わされることなく、落ち着いて判断・行動できるようになってほしい。

本時の中で問う「なぜこのようなことが起きるのでしょうか。」では、新型コロナウイルスについて分からないことがあったり、死亡することがあったりすることからの不安から差別が生まれてしまうことを確認する。不安なことを遠ざけることは、人間としての防衛本能が働くためであり、自分が罹患したら危険なことになるという思いをもつことは当然のことである。さらに、自分の家族などの身近な人にも広まってしまふかもしれないという不安から、罹患したくないと思う気持ちはあって当然である。しかし、だからといって仲間が罹患しているかもしれないとなったときに、遠ざけることをして良いのか、ということを考えさせたい。もし自分の家族が罹患してしまったときに、自分が周りからどういう扱いをされるのが良いのか、どういう扱いが嫌なのかも考えさせることで、多面的・多角的な考え方に繋げたい。

また、「自分が学校や家庭でできること、気をつけることは何でしょうか」という問いでは、きちんとした感染対策をし、情報を取り入れて不安を減らすことができたり、不安に思っても、そこから差別を生まないという気持ちをきちんともったりすることで、不安から差別への繋がりを断ち切ることができるということを考えさせたい。

情報収集に関しては、現在確かだと言える情報が少ない中で、新たな情報が次々に出てくる。新たな情報が入ったときに、それが確かであるかどうかを確認するために、他の人に「〇〇だって聞いたけど何か知ってる？」と聞いたことが、次の人に「〇〇なんだってよ」と変わって話されてしまふのは、不正確な情報を広げることになってしまう。インターネットに出ている情報も、全てが正確とは言えない。具体的に決まった解決方法がない中で、自分の不安が減り、他の人へ不安を広げないようにするにはどうしたら良いかの意見が多面的、多角的に考えて出せると良いと考える。また、生徒の意見が、「情報収集をする」「正確かどうか分からない情報を広げない」といった段階で止まりそうならば、「多く集めれば正確なのか」「どうやって正確かどうか確かめるのか」を投げかける。

確かなこととして、普段から他の人を傷つける差別や偏見、誹謗中傷はしない、新たな情報が入ったときに慌てて広めるようなことをしないことが、今後の自分の行動を考える際の意思決定の中に入ってくると良いと考える。

3 人権教育(校内研修)との関わり

(1) 直接的指導

新型コロナウイルス感染症が流行し、感染への不安から、感染の疑いや感染者との関わりが少しでもあった人、医療従事者、新型コロナウイルスが流行している都道府県や国の人などへの差別、偏見が取り上げられるようになった。また、感染者への誹謗中傷、個人情報の流出なども問題になっている。人は、目に見えない恐怖と遭遇すると、不安になり、目に見える「何か」「誰か」を攻撃し、排除することで恐怖から逃れようとすることがある。そのために人権を侵害することも厭わなくなってしまう。新型コロナウイルス感染症に対する不安から差別を生まない態度を育てていくことが大切であると考えられる。

本題材では、新型コロナウイルスへの不安から差別へ繋げないためにどうするかを考えることから、普段から差別や偏見をしない、情報に振り回されない、相手のことを考えて行動するなどの意識を高めていく。

(2) 間接的指導

自他の考えを交流し、わかり合ったり考えを深め合ったりする対話的な学びのよさを実感させるために次のような支援をする。

【意見を持ってない生徒への支援】

声かけなどの机間支援を行う。グループの他の生徒の意見を参考にさせたり、他の生徒の意見に対してどう思うかなどを考えさせたりして、自分の意見をもてるようにする。

【生徒同士の意見交換の場の工夫】

グループになって考えさせ、ホワイトボードに書いた内容を発表させることで、意見を言いやすい状況を作ったり、自信をもって発表に向かうようにしたり、視覚から情報を得たりすることができるようにする。

相談中の意見で、良い意見が出てきた際には賞賛して自信を付けさせる。

(3) 育てたい能力・態度

○判断力：偏見と差別の不当性を正しく捉え、物事を公正・公平に判断する。

○実践力：人権尊重の意識をもち、身近な人権問題を解決しようとする。

4 指導方針

(1) 事前の活動

○話し合いがスムーズに進むために、以下の点について学級委員との打ち合わせを行う。

- ・クラスの間関係（一人でいる人がいないかどうか、悪口など言われている人がいないかどうかなど）や、雰囲気は協力的かどうかなどの様子を聞き取り、学級委員はそれについてどう思っているかを聞く。学級委員から見て良くない状態ならば、何が問題なのか、どういう状態にするのが良いのかを考えさせる。
- ・生徒として意見を出しやすい話し合い方を考えさせる。特にないようならば、全体で最初から話し合うのか、2人、3人、4人などのグループを作るのかなどを提案し、選ぶようにさせる。
- ・事前にどんな意見が出てきそうか考えさせる。

(2) 本時の学習

○「普段から情報に振り回されない、差別・偏見をしない」という考えを生徒にもたせるために、以下のような点に注意する。

- ・新型コロナウイルスに対する不安は多いが、その不安がなぜ差別に繋がってしまうのか、不安を感じたときに差別に繋がらないためにはどうすれば良いのかを考えさせる。
- ・もし自分の家族がかかってしまったときに、自分が周りからどういう扱いをされるのが良いのか、どういう扱いが嫌なのかも考えさせる。
- ・「自分が学校や家庭でできること、気をつけることは何でしょうか」では、不安から差別を生まないためには不安を解消することや、不安があっても差別に繋がさせないためにどうするかを考えさせる。
- ・具体的に決まった解決方法がない中で、自分の不安が減り、他の人へ不安を広げないようにするにはどうしたら良いか考えさせる。
- ・どんな情報があったとしても、そこから人を差別してはならないという意見を拾い上げ、確実にできることとして全体で確認する。
- ・新しい情報が入ったところで、慌てて行動したり、それを広めたりしないこともできることとして確認する。

(3) 事後の活動

○意志決定したことを実践し、定期的に振り返る。

- ・実践について自己評価をし、改善しながら生活の中で生かすことができるようにする。
- ・生徒の意識の変容を見たり、定期的に実践を振り返ったりするためにアンケートを取る。
- ・普段の間関係で差別されていないか、差別が見られないかどうかのアンケートを取る。

5 本時の学習

- (1) ねらい 新型コロナウイルス感染症に対する不安を減少させ、差別・偏見をなくすために必要なことを話し合い、そこから普段の生活の中で自分が取り組むことについて決める。
- (2) 準備 資料、記入用プリント、ホワイトボード
- (3) 展開

過程 (時間)	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
導入 10分	<p>1. 問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京都教育委員会作成の資料「まるでウイルスみたいに・・・」を読む。 ○どういう気持ちから、周りの人は主人公を遠ざけたのかを考える。 ○新型コロナウイルスへの不安はどんなものがあるか考える。 ○周り意見交換して、様々な不安があることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「コロナ患者を受け入れている病院で働いている親をもつ生徒が、それを理由にクラスメイトから距離を置かれる」という資料を見せ、ウイルスに対する不安から、人間同士の差別へ繋がってしまうことを知らせる。 ○新型コロナウイルスへの不安を考えさせ、「いつまで続くか分からない」「どこから感染するか分からない」「かかってしまったら大変」などの不安を出させる。 ○めあてを確認することで、本時に考え、意志決定する見通しがもてるようにする。
<p>新型コロナウイルスへの不安を減らし、差別や偏見をなくすために普段の生活でできることを考えよう。</p>		
展開 30分	<p>2. グループ活動①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各自プリントに意見を書いてから、4、5人程度のグループになり、意見交換する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>なぜこのようなことが起きるのでしょうか。</p> </div> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナにかかりたくないから。 ・不安だと離れたくなる。 ・コロナのことがよく分からないから。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの班が、出た意見を発表する。 ○学級委員が意見をまとめ、「不安」から「差別」が生まれていることを確認する。 <p>3. グループ活動②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身が学校や家庭でできること、気をつけることをグループで相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級委員 3 名が司会進行となり、学級会を進める。 ○各自が意見をきちんともってからグループにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○教師から「コロナウイルスを不安に思うのは当然のこと、不安に思うものを遠ざけてしまうのは人間として備えられた行動の一つであること」を説明する。 ○「不安にならないために」「差別を生まないために」どうするかを考えさせる。

	<p>自分が学校や家庭でできること、 気をつけることは何でしょうか</p> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報に振り回されないようにする。 ・噂を信じないようにする。 ・怖がりすぎないようにする。 ・よく分からない情報を広めないようにする。 ・情報が正しいか確認してから話す。 ・自分の考えをしっかりとって行動する。 ・言われた相手のことも考えて発言する。 ・差別・偏見をしないようにする。 ・自分がされて嫌なことは相手にもしない。 <p>○ホワイトボードを黒板に貼り、各班が発表する。(それまでの発表で出ていない意見だけを発表する)</p> <p>○グループから戻す。</p>	<p>○キーワードとして、「情報（受け取る情報、発する情報）」「相手」を提示することで、考えることや話し合うことを焦点化することができるようにする。</p> <p>○「もし自分の家族がかかってしまったときに、自分が周りからどういう扱いをされるのが良いのか、どういう扱いが嫌なのか」も考えさせる。</p> <p>○「なぜ不安が生まれるのか」も参考にさせることで、それを解消させるためにどうするかを考えさせる。</p> <p>○自分の不安が減り、他の人へ不安を広げないようにするにはどうしたら良いか考えさせる。</p> <p>○「情報が正しいか確認する」といった意見が出た場合には、教師から「情報が正確かどうかを確認することの難しさ」にも目を向けさせる。</p> <p>○各班で、出た意見の中で良いと思うものはいくつでもホワイトボードに書かせる。</p> <p>○「どんなときでも差別・偏見をしない」「新しい情報に惑わされない」「よく分からない情報を広めない」「自分がされて嫌なことをしない」などの、コロナ関係なく普段からできることに焦点を当ててまとめさせる。</p>
<p>終末 10 分</p>	<p>4. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これから自分で取り組んでいくことを決める。 ○周囲の人と、意志決定したことを伝え合う。 ○本時の感想を書く。 ○教師からのまとめを聞く。 	<p>○「自分に合っているものかどうか」「具体的な内容かどうか（何を、いつ、どのように）」を示し、自分に合った具体的な内容として意志決定できるようにする。</p> <p>○今回は「不安」から「差別」に繋げないための対策を考えたが、普段からできることをしていくことで、いざというときに不安を強めたり差別に繋げてしまったりということがなくなることを意識させる。</p>